

平成 21 年度箕面市当初予算(案)の重点施策

安心・支え合い最優先

お年寄りから子どもまで、障害のある人もない人も、誰もがこの箕面の地で、そして、地域の中で、互いに支え合いながら、その人らしく、安心して幸せな日常生活が送れるまちづくりを進める。

1. 市立病院の改革の断行
地方公営企業法を全部適用し、自らの権限と責任のもと弾力的な運営や経営の効率化を図り、一般会計からの支援に頼らない独立採算をめざすなど市立病院改革を実行
(一般会計から病院事業会計への支援額：平成20年度 845,613 千円 平成21年度 241,836 千円)
2. 公共施設等の耐震化 【予算額 270,438 千円】
公共施設耐震化計画に基づき、避難所となる学校の耐震化を計画的に実施(平成21年度は西南小学校、第三中学校の補強工事等)
市民会館(グリーンホール)について、耐震補強設計に併せてエレベーターの設置に着手
3. 全小中学校のアスベスト対策の完了 【予算額 16,792 千円】
労働安全衛生法施行令等の改正に伴い、従来より厳しい含有率基準が示された結果、唯一、含有率が基準値を超えた東小学校の除去工事を実施し、これにより、市内の全小中学校のアスベスト対策を完了
4. 消防力の充実強化(消防車両5台の更新) 【予算額 136,696 千円】
非常備消防を含めた消防力の充実強化を図り、市民の消防需要に対する確に対応するため、NOx・PM法の使用期限に伴う消防車両5台(常備1台・非常備4台)を新型車両に更新
5. 阪急電鉄牧落駅バリアフリー化(エレベーター設置等) 【予算額 71,000 千円】
牧落駅のエレベーター設置等に着手し(平成22年度竣工予定)、阪急箕面線全駅のバリアフリー化を完了
6. 高齢者の健康づくりと社会参加の促進(高齢者表彰制度) 【予算額 78 千円】
健康の維持と地域の活力を高める活動に対し功績をたたえるため、新たに高齢者表彰制度を創設
7. 支え合う地域活動の支援・促進(地域交付金の創設等) 【予算額 5,585 千円】
地域が実情に応じて自ら予算用途を決める仕組みとして、補助金を統合・拡充し、新たな地域交付金を創設
子どもたちの見守り、地域の防犯力を高めるため、地域を巡回する企業との連携・協力を推進

子育てしやすさ日本一

各自治体の子育て支援に切磋琢磨する中、自治体間競争に勝ち抜き、「子育てするなら箕面」と呼ばれるような、子育て環境の整備と教育の充実を進める。

1. 「未来子ども基金」の創設 【予算額 150,001 千円】
未来を担う子どもたちが箕面のまちで健やかに成長するための事業を推進するため、新たな基金を創設
2. 子育て世代への医療費支援の拡大(子ども、妊婦健診) 【予算額 301,766 千円】
子どもの医療費助成の対象年齢について、通院は小学校入学前まで、入院は中学校入学前まで拡大するとともに所得制限を全廃
妊婦健康診査に係る公費助成を、従来の5回から、概ね全回の14回に拡充
3. キメ細やかな子育て支援の充実(赤ちゃん全戸訪問等) 【予算額 3,630 千円】
生後4カ月までの乳児がいる家庭を全戸訪問する「赤ちゃん・子どもすこやか事業」を新たに実施し、乳児と保護者の心身の状況や養育環境の把握、子育ての情報提供、健康教室等を実施
4. 認定こども園の開設(箕面森町)
箕面森町の小中一貫校「とどろみの森学園」の敷地内に、幼稚園・保育所が一元化した「認定こども園」を開設(平成23年4月予定)し、0歳から15歳までの保育・教育を一体的に推進
施設一体型の小中一貫校と保育所・幼稚園が一体化した施設を同一敷地内に配置するのは、全国初の試み

5. 小中一貫教育の推進 【予算額 31,479 千円】
彩都において、箕面市で2校目(=大阪府内で2校目)となる施設一体型小中一貫校の建設工事に着手
その他の小中学校においても校区連携型小中一貫教育を推進
6. 学校施設の学習環境の向上(エアコン、コンピュータ等) 【予算額 148,005 千円】
市内の全中学校のすべての普通教室にエアコンを設置
市内の全中学校のコンピュータ教室のすべてのコンピュータを更新(とどろみの森学園は追加配備)
7. 生徒指導の充実(箕面市独自の教職員の追加配置) 【予算額 40,452 千円】
生徒指導の充実が学力向上につながることから、箕面市独自の生徒指導の支援講師(生徒指導担当者授業支援員)を中学校2校に追加し、市内の全中学校への配置を完了、さらに、小学校1校にも追加配置

緑・住みやすさ最先端

箕面を特徴づける一番の魅力は、山の緑に代表される豊かな自然環境と良好な住環境である。このすばらしい山々、緑がいたるところにあり、便利で住みやすく、誰もが元気で活力ある箕面をめざす。

1. 山なみ景観の保全・育成(新たな保全手法の検討)
住宅地に近接する山々について、従来の都市計画法や景観法等の手法で対応できない部分について、新たな保全手法の条例化の検討に着手
2. 「(仮称)みどりファンド」の創設
住宅地の巨木やシンボルツリーの植栽、生け垣緑化など、これらの緑を守り、育て、活かすことにより箕面のブランド力を高めるための助成制度の検討に着手
3. 公園や遊休地などの公共空間の活用
公園や市の遊休地などの公共空間を、地域活動やコミュニティの場として活用するため、地域で決めた自主的な利用ルールによる管理運営ができる仕組みを構築
4. 市内バス路線網の充実に向けた法定協議会の設置 【予算額 2,000 千円】
バスのサービスや運行水準等を実証する社会実験を平成22年度に実施するため、法律に基づく法定協議会を立ち上げ、公共施設巡回福祉バス(Mバス)と路線バスとの連携や一体化を検討
5. 北大阪急行線の延伸 【予算額 54,528 千円】
商業活性化や駅の開設によるバス路線網の充実などの観点から、北大阪急行線の延伸に向けた関係者との協議を加速するとともに、当初予算での「交通施設整備基金」(鉄道延伸用資金)への積立を15年ぶりに再開

市政運営を着実に実行するために

行財政改革の断行

平成25年度当初予算で経常収支比率を100%以下にする。そのために、経常的な支出水準を年間20億円規模で圧縮する。

平成25年度当初予算で財源不足を解消し、基金に頼らない行財政体制を実現する。そのために、今後5年間で総額273億円の財源不足を解消する。

市役所改革

市役所の実行力を高めるため、組織文化の刺激や新しい発想を取り入れる観点から、企業経験者の採用や、人事交流を実施するとともに、行政事務に効率的に対応するため組織機構改革を実施する。

- ・「みどり」をコンセプトにした「みどりまちづくり部」の設置
- ・食育に取り組む「食育推進課」の設置
- ・民間の視点で箕面を売り込む「箕面営業課」の設置